

モナリザの生活習慣病

客員 相談役 藤井 基之



「モナリザ」といえば、誰でも知っているレオナルド・ダ・ヴィンチによって描かれた名画です。フランス王朝ルイ十四世の時代にはベルサイユ宮殿に飾られ、フランス革命の後、ルーブル美術館に移されたのだそうですが、一時、ナポレオンが寝室に飾って、あの「モナリザの微笑み」を楽しんでいたこともあったとか。大きさは七七cm×五三cmですから意外に小さな絵ですが、今日でもルーブル美術館の目玉となっています。かつて入館者が石を投げつけるという事件があったことから、現在は防弾ガラスの箱で覆われて展示されています。

さて、モナリザは美女の代名詞となっていますが、その微笑んでいるかに見える表情については神秘的だとか魅力的だという一方で、不気味など様々な見方があるようです。顔の左側と右側で表情が違い、左は悲しみ、右は喜びの表情になっているとか。コンピュータで解析したところ八三%の幸せ、九%の嫌悪、六%の恐怖、二%の怒りを表しているという研究結果もあるそうです。

たのではないか、目の周りに亀裂があることなどから、そう推測されているそうです。

ところで熊本大学大学院・医学薬学研究所の安東由喜雄教授が書かれた『映画と恋と遺伝子と』という本で、面白いことが紹介されています。

モナリザの左目の鼻側の隅に吹き出物のような小さな「腫粒」が描かれている、というのです。そして、これは多分、高コレステロール血症に伴ってできる「黄色腫」だと見られる、としています。レオナルド・ダ・ヴィンチは正確な人体解剖図まで描いており、小さな腫粒も見逃

さなかつたのだと。

安東教授によれば、おそらく家族性遺伝性高脂血症によるものか、あるいはぜいたくな食事を取り過ぎて高脂血症になってしまったのではないかとみられるそうです。そういえばモナリザのモデルとなった女性はフランチェスコ・ジョコンドという貴族の夫人だったといわれ、モナリザの絵の別名は「ジョコンド」ともいうそうです。貴族夫人でしたら豊かな

な食生活を送っていたのかもしれませんが、今という生活習慣病ですね。

コレステロールには、動脈硬化を促進する悪玉コレステロールと呼ばれるLDLコレステロールと、悪玉コレステロールが蓄積するのを防ぐ善玉コレステロールのHDLコレステロールがありますが、モナリザもごちそうを食べ過ぎて悪玉コレステロールがたまっていたのでしょうか。安東教授は「モナリザの手も

大きめで、腫粒が見られる」と言っています。

人には、進化の過程でコレステロールをたくさん含む霜降り肉をうまいと感じる遺伝子が組み込まれているそうです。健康に年を重ねるためには美味しいお料理ほど、腹八分目を心掛けねばなりません。

藤井 基之

- 生年月日 昭和22年3月16日
- 選挙区 参議院比例区
- 当選回数 1回
- 出生地 岡山県岡山市
- 趣味 音楽・読書
- 個人ホームページ <http://www.mfujii.gr.jp/>
- その他 薬学博士・薬剤師
- 私の政治信条
私の政策の柱はA(エイジフリー)B(バリアフリー)D(ドラッグフリー:薬物乱用のない社会)社会造りです。
高齢者も、障害を持つ方も、国民誰もが安心して暮らし、元気で生活を送ることのできる長寿社会を創るために何か必要か、を政治活動の根拠においています。
好きな言葉「昨日の夢は、今日の希望、そして明日の現実」
- 活動報告
参院議員厚生労働委員会理事として、食品安全確保のための食品衛生法改正、健康増進法改正、薬事法改正、薬剤師法改正、クリーニング業法改正、国民年金法改正等に関与。
- 経歴
昭和37年 岡山大学教育学部附属中学校卒業
昭和40年 岡山県立岡山操山高等学校卒業
昭和44年 東京大学薬学部薬学科卒業
昭和44年 厚生省入省
平成9年 厚生省退官
平成9年 財団法人 ヒューマンサイエンス 振興財団専務理事
平成12年 日本薬剤師連盟副会長
社団法人 日本薬剤師会常務理事
平成13年 参議院議員
平成16年 厚生労働大臣政務官 (平成16年9月~平成17年11月)
平成19年 日本薬剤師連盟顧問
- その他
昭和大学薬学部 客員教授
共立薬科大学 客員教授
東邦大学薬学部 客員教授
新潟薬科大学 客員教授
千葉大学薬学部 非常勤講師
京都薬科大学 客員教授